

史跡指定 100 周年記念企画展「名護屋城跡 並 陣跡」開催要項

- 1 展覧会名 史跡指定 100 周年記念企画展「名護屋城跡 並 陣跡」
- 2 主 催 佐賀県立名護屋城博物館
- 3 会 期 令和 8 年（2026）10 月 9 日（金）～11 月 29 日（日）
52 日間（うち休館は 7 日間） 休館日：月曜日、ただし祝休日の場合は翌日
- 4 会 場 佐賀県立名護屋城博物館 2 階 企画展示室 [開館時間] 9:00～17:00

5 趣 旨

「名護屋城跡 並 陣跡」－この名称で名護屋城跡と 10 カ所の大名陣跡が史跡に指定されたのは、大正 15 年（1926）のことです。この指定が現在に続く、発掘調査・保存整備・活用の端緒となりました。昭和 30 年（1955）には特別史跡となり、昭和 51 年（1976）には佐賀県による保存整備事業がスタートし、令和 8 年（2026）は史跡指定から 100 年、保存整備事業開始から 50 年にあたります。当館ではこれを記念し、企画展「名護屋城跡 並 陣跡」を開催します。

文禄・慶長の役の際の出兵拠点として豊臣秀吉が築いた名護屋城は、天正 19 年（1591）から築城を開始し、主要部分はおよそ半年で築られました。その規模は大坂城に次ぎ、現在残る石垣や遺構からは、「天下人」秀吉の城としてふさわしい威容を誇っていたことが分かります。また、名護屋城の周辺には、日本各地から集まった諸大名の陣が築かれ、山々に陣がひしめく様子は、当時の武士の手紙に「野も山もあく所なく候」と記されています。秀吉の死によって文禄・慶長の役が終息に向かい、名護屋城が出兵拠点としての役目を終え、後の時代に破却された後は、読み物や軍記物で人々に記憶されました。

明治時代以降、文化財保護の機運が高まり、大正 8 年（1919）には史蹟名勝天然紀念物保存法が制定されました。史跡指定 100 年を記念して開催する本展覧会では、名護屋城と大名陣に関する古文書等や出土遺物とともに、大正時代の史跡指定に係る調査資料といった近代資料、そして 50 年におよぶ保存整備事業の成果を展示することで、「特別史跡 名護屋城跡並陣跡」の本質的価値を認識する機会とします。

- 6 展示点数 約 40 点

- 7 観 覧 料 無料

8 展示構成

コーナー	主な展示資料
プロローグ 大正の史跡指定から 100 年	パネル展示
序 文禄・慶長の役と肥前名護屋 － 「天下一御陳所」	・「豊前覚書」(九州大学中央図書館蔵)
I 肥前名護屋城 － 「名護屋之御要害天守以下聚楽ニ劣ルコトナシ」	・「諸国古城之図 名護屋(肥前)」(広島市立図書館蔵) ・「七月二十五日付浅野長吉書状」(佐賀県重要文化財／佐賀県立図書館蔵) ・「(天正二十年)四月二十二日付豊臣秀吉朱印状」(当館蔵) ・「船手口出土 金箔桐紋瓦」「船手口出土 金箔桐紋瓦」(当館蔵)
II 肥前名護屋の諸大名陣 － 「名護屋ニ陣を固 <small>かたく</small> 可 <small>これあるべく</small> 在 <small>せうろう</small> 之候」	・「(天正二十年)三月十三日付豊臣秀吉朱印状」(神戸大学蔵) ・「大和田近江日記」(一般社団法人千秋文庫蔵) ・「肥前名護屋城図屏風(群馬本)」(個人蔵) ・「堀秀治陣跡出土 天目茶碗」(当館蔵)
III 古城から史跡へ － 「濠渠、石塁、磴道等、尚遺残シ其ノ雄大ナル」	・「測量日記十九」(国宝／伊能忠敬記念館) ・「巡見使対応記録」(唐津市近代図書館蔵) ・「野帳 No61(柴田常恵野帳資料)」(國學院大學博物館蔵)
エピローグ これからの百年に向けて	パネル展示及び近年の発掘調査の成果として出土遺物を展示

9 期間中の行事(予定) 展示解説、記念講演会等

10 印刷物 展示図録・ポスター・チラシ等

11 担 当 佐賀県立名護屋城博物館 学芸課 田畑春香・林田卓也
〒847-0401 佐賀県唐津市鎮西町名護屋 1931 番地 3
TEL 0955-82-4905 FAX 0955-82-5664
Mail nagoyajouhakubutsukan@pref.saga.lg.jp